

## 年 表

### 凡 例

- ※ 日付けの記載は次のようにした  
 12.15 (月.日) により、日の特定し難いものは—を用いた。  
 △は年代を特定し難いもの  
 ○は月日を特定し難いもの  
 ※ 暦法は明治5年以前は太陰暦により、同6年以降は太陽暦による

西 暦	時 代	国 内 事 項	町 内 事 項
前 200万頃 30万頃	原 始	△(先土器時代)人出現—東アフリカの深谷から人骨発掘) △有明海の水位も現在に比へ30m前後上昇し筑紫平野・唐津平野などほとんど海底になる △日本の原人住みつく △このころ、有明海の水位は現在に比へ50m以上低下、現海域完全に陸化する △阿蘇、霧島、雲仙、多良岳等の火山活動活発 △有明海の水位現在に比へ130m～140m低下、全海域完全に陸化する △有明海の水位現在に比へ40m～50m低下する	△今山船塚北東より細石器出土
1万3千前後	時 代	△縄文式土器出現 石器、骨角器、木器制作、自然採集経済、原始的共同体社会	△横馬場遺跡 △磯石北東、同ウバノツクラ、同南方、野ロクワ、水上塚原及同墓所北、大願寺北原北方、大久保新堤北西遺跡 △今山遺跡 △今山遺跡 △船塚北東遺跡 (鐘ヶ崎式・御領式土器外)
1万前後	機 織 文 時 代		
8,000頃	前 期		
5,000頃	中 期		
3,000頃	後 期		
2,000頃		△3,500年前頃有明海の水位も現水位と同じになる	

西 暦	時 代	国 内 事 項	町 内 事 項
1,000頃	彌 生 時 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>△弥生式土器の制作使用</li> <li>△水部耕作始まる</li> <li>木製農具使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△磯石南方遺跡 (御領式土器、石器)</li> <li>△野口遺跡</li> <li>△磯石ウバノツクラ及同南方 (山ノ寺式土器、石器)</li> <li>△野口住居遺跡 (遠賀川式壺)</li> <li>△今山八幡籠遺跡 (かめ棺、石棺等)</li> <li>△尼寺南小路 (支石墓、台口かめ棺、人骨等)</li> <li>△佐賀コロニー遺跡 (かめ棺、石棺、鉄片等)</li> <li>△都渡城高阜遺跡 (高三階式土器)</li> <li>△久留間遺跡 (住居跡外土器等)</li> </ul>
300頃			
57	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ倭 (日本) 百余国に分かれる (前漢書)</li> <li>○倭の奴国王、後漢に朝貢して金印を受く (後漢書)</li> <li>△倭国に内戦続き、のち卑弥呼を共立して邪馬台国の女王として内戦治まる (魏志倭人伝)</li> <li>○卑弥呼魏に遣使、魏王は卑弥呼を倭王とし金印紫綬をおくる ( )</li> <li>△卑弥呼死に壱与が女王となる ( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△尼寺南小路 (広形銅矛)</li> <li>△上戸田団地 (釣川式かめ)</li> <li>△小隈遺跡 (石棺丁)</li> <li>△水上石工場敷地 (大型かめ棺)</li> </ul>
147			
188	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○このころ大和朝廷ほぼ全国統一</li> <li>○日本軍南鮮に出兵し、任那に日本府成立</li> <li>○朝鮮半島に出兵、百濟、新羅を服属させる</li> <li>○このころ大陸の影響による横穴式石室古墳出現</li> <li>○日本軍漢江を渡り帯方郡へ侵入し、高麗軍と戦って破</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
229			
248	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倭王東晋へ遣使</li> <li>○倭王讃宗へ遣使</li> <li>○倭王珍奈へ遣使</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
350			
369	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倭王武 (雄略天皇) 宗へ遣使</li> <li>○筑紫国造盤井筑紫野において斬られる</li> <li>○諸所に屯倉を設置</li> <li>○大友狭手彦、任那に渡り百濟を救う</li> <li>○途中篠原村の松浦佐用姫と婚したと伝える</li> <li>○百濟聖明王仏像經典を欽明天皇に献上 (日本に初めて仏教伝来)</li> <li>○日本、百濟を救け新羅と交戦、百濟聖明王戦死</li> <li>○任那日本府新羅に滅ぼされる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
391			
400	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倭王武 (雄略天皇) 宗へ遣使</li> <li>○筑紫国造盤井筑紫野において斬られる</li> <li>○諸所に屯倉を設置</li> <li>○大友狭手彦、任那に渡り百濟を救う</li> <li>○途中篠原村の松浦佐用姫と婚したと伝える</li> <li>○百濟聖明王仏像經典を欽明天皇に献上 (日本に初めて仏教伝来)</li> <li>○日本、百濟を救け新羅と交戦、百濟聖明王戦死</li> <li>○任那日本府新羅に滅ぼされる</li> <li>○倭我氏、物部氏を滅ぼす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
404			

西 暦	時 代	国 内 事 項	町 内 事 項
413	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倭王東晋へ遣使</li> <li>○倭王讃宗へ遣使</li> <li>○倭王珍奈へ遣使</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
421			
438	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倭王武 (雄略天皇) 宗へ遣使</li> <li>○筑紫国造盤井筑紫野において斬られる</li> <li>○諸所に屯倉を設置</li> <li>○大友狭手彦、任那に渡り百濟を救う</li> <li>○途中篠原村の松浦佐用姫と婚したと伝える</li> <li>○百濟聖明王仏像經典を欽明天皇に献上 (日本に初めて仏教伝来)</li> <li>○日本、百濟を救け新羅と交戦、百濟聖明王戦死</li> <li>○任那日本府新羅に滅ぼされる</li> <li>○倭我氏、物部氏を滅ぼす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
443			
460	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倭王武 (雄略天皇) 宗へ遣使</li> <li>○筑紫国造盤井筑紫野において斬られる</li> <li>○諸所に屯倉を設置</li> <li>○大友狭手彦、任那に渡り百濟を救う</li> <li>○途中篠原村の松浦佐用姫と婚したと伝える</li> <li>○百濟聖明王仏像經典を欽明天皇に献上 (日本に初めて仏教伝来)</li> <li>○日本、百濟を救け新羅と交戦、百濟聖明王戦死</li> <li>○任那日本府新羅に滅ぼされる</li> <li>○倭我氏、物部氏を滅ぼす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
478			
527	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倭王武 (雄略天皇) 宗へ遣使</li> <li>○筑紫国造盤井筑紫野において斬られる</li> <li>○諸所に屯倉を設置</li> <li>○大友狭手彦、任那に渡り百濟を救う</li> <li>○途中篠原村の松浦佐用姫と婚したと伝える</li> <li>○百濟聖明王仏像經典を欽明天皇に献上 (日本に初めて仏教伝来)</li> <li>○日本、百濟を救け新羅と交戦、百濟聖明王戦死</li> <li>○任那日本府新羅に滅ぼされる</li> <li>○倭我氏、物部氏を滅ぼす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
528			
534	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倭王武 (雄略天皇) 宗へ遣使</li> <li>○筑紫国造盤井筑紫野において斬られる</li> <li>○諸所に屯倉を設置</li> <li>○大友狭手彦、任那に渡り百濟を救う</li> <li>○途中篠原村の松浦佐用姫と婚したと伝える</li> <li>○百濟聖明王仏像經典を欽明天皇に献上 (日本に初めて仏教伝来)</li> <li>○日本、百濟を救け新羅と交戦、百濟聖明王戦死</li> <li>○任那日本府新羅に滅ぼされる</li> <li>○倭我氏、物部氏を滅ぼす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
537			
542	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倭王武 (雄略天皇) 宗へ遣使</li> <li>○筑紫国造盤井筑紫野において斬られる</li> <li>○諸所に屯倉を設置</li> <li>○大友狭手彦、任那に渡り百濟を救う</li> <li>○途中篠原村の松浦佐用姫と婚したと伝える</li> <li>○百濟聖明王仏像經典を欽明天皇に献上 (日本に初めて仏教伝来)</li> <li>○日本、百濟を救け新羅と交戦、百濟聖明王戦死</li> <li>○任那日本府新羅に滅ぼされる</li> <li>○倭我氏、物部氏を滅ぼす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
554			
562	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倭王武 (雄略天皇) 宗へ遣使</li> <li>○筑紫国造盤井筑紫野において斬られる</li> <li>○諸所に屯倉を設置</li> <li>○大友狭手彦、任那に渡り百濟を救う</li> <li>○途中篠原村の松浦佐用姫と婚したと伝える</li> <li>○百濟聖明王仏像經典を欽明天皇に献上 (日本に初めて仏教伝来)</li> <li>○日本、百濟を救け新羅と交戦、百濟聖明王戦死</li> <li>○任那日本府新羅に滅ぼされる</li> <li>○倭我氏、物部氏を滅ぼす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
564			
587	古 代	<ul style="list-style-type: none"> <li>○倭王武 (雄略天皇) 宗へ遣使</li> <li>○筑紫国造盤井筑紫野において斬られる</li> <li>○諸所に屯倉を設置</li> <li>○大友狭手彦、任那に渡り百濟を救う</li> <li>○途中篠原村の松浦佐用姫と婚したと伝える</li> <li>○百濟聖明王仏像經典を欽明天皇に献上 (日本に初めて仏教伝来)</li> <li>○日本、百濟を救け新羅と交戦、百濟聖明王戦死</li> <li>○任那日本府新羅に滅ぼされる</li> <li>○倭我氏、物部氏を滅ぼす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△このころ野口森ノ上古墳築造</li> <li>△このころ今山船塚古墳築造</li> </ul>
587			

西 暦	時 代	国 内 県 内 事 項	町 内 事 項
593	推古天皇元	○聖徳太子摂政となる	
594	〃 2	○仏教興隆の詔を発する	
603	〃 11	○冠位十二階を定める	
604	〃 12	○十七条の憲法制定	
607	〃 15	○法隆寺を創建、遣隋使小野妹子を送る	
622	〃 30	○聖徳太子没す	
645	大化元	○中大兄皇子ら蘇我馬子を殺す	
646	〃 2	6.19 初めで年号を定め大化元年とする	△このころ肥前国府を久池井に置く。郡郷里制度定まる
647	〃 3	1. 1 大化改新の詔を発する	
662	白雉 3	○班田収授法施行	
663	天智天皇 2	○8.27 日本軍白村江の戦で大敗す	
664	〃 3	○太宰府の守りとして筑紫に水城を築く	○行基、岩屋山に神宮寺(実相院)を建立 △このころ健福寺創建か
665	〃 4	8. - 基肆城を築く	○国分寺へ丈六の釈迦像1体、脇侍2体、大般若写経の詔を発する
713	〃 6	5. 2 諸国に風土記編さんを命ずる	
737	天平 9		

西 暦	時 代	国 内 県 内 事 項	町 内 事 項
737	天 平 9		○国分寺へ七重塔1基、法華経10部、七尺観音像1体、観音経10卷写経の詔下る
740	〃 12		3.24 国分僧寺、同じく尼寺建立の詔出る 正式の寺名並びに維持経営細則決定 最勝王経、法華経各10部写経の詔出る
741	〃 13		7.23 国分寺の造寺料を定め、一部宮坂の分寺料に当てる
744	〃 16		11. - 国分寺造営の遅れで、国司の怠慢を責める
747	〃 19	9. - 東大寺大仏の鑄造を始める	12. 国分寺に仏具納入(灌頂幡、道場幡、緋綱)
756	天平勝宝 8	○肥前国に宇佐神宮の頒地	5. - 肥前国府昇格し、介の官1人増員
757	天平宝字元		
769	神護景雲 3	9.25 和氣清磨大隅に流さる	
774	室 亀 5	3. 4 新羅の使者太宰府に来る	
780	〃 11	7.15 西国沿岸警備を厳にする	
788	延 暦 7	○最澄比叡山延暦寺創建	
794	平安時代 延 暦 13	10.22 平安京に遷都	
805	〃 24	○最澄帰朝し天台宗を創む	
806	大同 元	○空海帰朝し真言宗を創む	
841	承和 8	8.19 太宰府の防人104人を対島に当てる	
862	貞観 4	7.23 唐の商人43人来る	

西 暦	時 代	国 内 事 項	町 内 事 項
901	延喜元	1.25 菅原道真太宰府権帥に左遷	○藤原文時甘南備に住す(高木氏の祖) ○国分寺へ熾災除去の祈願を命ず
1003	長保5		
1017	寛仁元	7. 保元の乱起こる。平清盛、源義朝ら白河殿を攻める	
1156	保元元		
1157	〃		10.8 僧珠管河上神社の座主となる
1162	応保2		2.23 肥前国司庁宣を下して、河上社5月、8月の両会にヤブサメ・スモウ・田楽などを復興させる
1167	仁安2	2.11 平清盛太政大臣となる	3.10 河上社々額苑田給主等の社役の意りをとがめ、諸人の神域内外における不法行為を禁ず ○この頃より今の実相院を河上山神通寺という
1170	嘉応2		
1176	安元2		
1185	鎌倉時代 文治元	3.24 平氏壇ノ浦に亡ぶ 11. 源頼朝諸国に守護地頭の勅許を得る	○高木宗家はこの頃甘南備城主(春日山)又河上社大高司となる ○実相院六世春勝と高木宗家との河上社座主争い
1186	〃		8. 院の御下文をもって僧春勝を河上社の座主とす
1194	建久5		2.25 藤原季永国分寺地頭となる

西 暦	時 代	国 内 事 項	町 内 事 項
1199	正治元	1.18 源頼朝没(53才)	
1207	承元元	2.18 専修念仏を禁じ、法然・親らんを流す	
1209	〃		
1211	建暦元		4.25 肥前国留守所、佐嘉郡以下の諸郡に河上社5月、8月の両会におけるヤブサメ勅行を令する ○実相院天台宗より真言宗になる
1212	〃	1.25 僧源空(法然)没(80才)	10.27 藤原季俊国分寺地頭となる
1219	承久元	1.27 将軍源実朝殺される(28才)	
1221	〃	5.14 承久の変起こる	
1233	天福元	7. 幕府、後鳥羽法皇を隠岐に、順徳上皇を佐渡に流す	11. 鎌倉幕府、河上社に領地2町を寄進する
1235	嘉禎元		9. 神子(栄尊)平戸より入宋(栄尊和尚年譜)
1240	仁治元		○神子水上山万寿寺創建開山となる(〃)
1241	〃		○聖一国師万寿寺の開堂式を行う(〃)
1255	建長7		○於保三郎宗益肥前国執行職となる(於保氏系図)
1257	正嘉		○北條時頼佐嘉郡北原(大和町)へ来る(鎮西志)
1261	弘長元		○高木氏の所領上佐嘉を国分忠俊に与える(〃)
1262	〃	11.28 親らん没す(90才)	○河上社正一位を授けらる
1263	〃	11.22 北條時頼没す(37才)	○国分忠俊、尊光寺及び高城寺開基、順空高城寺の開山となる(鎮西要略)
1270	文永7		

西 暦	時 代	国 内 県 内 事 項	町 内 事 項
1271	文 永 8		8. 朽井 (久池井) 村地頭国分忠俊、田畑山野を尊光寺に寄進し、又寺の規式を定める
1272	〃 9		12.28 神子禪師没す (80才) 水上山に葬る
1273	〃 10		8. 蔵山順空 (円鑑禪師) 尊光寺の院主となる
1274	〃 11	10.5~20 蒙古襲来 (文永の役) 蒙古軍対島・老岐領民を殺す。博多湾沿岸に上陸。夜大風起こり鑑船漂流する	
1280	弘 安 3		12.11 河上社造管料1国平均に課す
1281	〃 4	5.21 蒙古軍対島を侵す	
	〃 4	6.6 蒙古軍志賀島を侵す。我が兵これを要撃す	
	〃 5	7.1 蒙古の艦船暴風によって覆滅する (弘安の役)	
1282	〃 5	10.13 日蓮没す (61才)	○於保種宗肥前国執行職となる (於保氏采国)
1283	〃 6		12.5 肥前守護北條為時は河上山神域内における諸人の乱行を禁ずる (河上社文書)
1284	〃 7		○鎌倉幕府、高城寺、尊光寺に領地を寄進す (高城寺文書)
1285	〃 8		8. 藤原季高、国分寺、朽井村地頭職となる (鎌倉文書)
1288	正 応 元		11. 鎌倉幕府高城寺に川副の地を寄付する (〃)
1292	〃 5		6.16 幕府は肥前国平均の役として河上社新社殿の造営

西 暦	時 代	国 内 県 内 事 項	町 内 事 項
1292	正 応 5		を命ずる (河上社文書)
1300	正 安 2		7.5 於保四郎入道を肥前執行職となす (於保文書)
1303	嘉 元 元		8.17 円鑑禪師座像完成 (現在国の重文)
1308	延 慶 元		12.25 高城寺幕府の祈禱所となる (高城寺文書)
1322	元 亨 2		○河上社に異賊防禁の奉幣勅使あり (鎮西要略) ○円鑑禪師没す (76才)
1331	元 弘 元	8. 後醍醐天皇笠置に移る	8.29 河上社々殿の造営なる。一国平均町別銭 300文米5升。この日蓮宮の儀を行う (河上社文書)
1332	〃 2	9.14 楠正成孝兵	1. 河上社大宮司高木家直と座主円雅 (実相院2世) と社務管理権、社領支配等について争い續く (〃)
1333	〃 3	3.7 幕府天皇を隠岐に流す	
1334	建 武 元	11. 護良親王吉野に挙兵し、楠正成千早城によって戦う	10.1 高城寺勅願寺となる (高城寺文書)
		南北朝時代 6.5 後醍醐天京京都遷幸 ○鎌倉幕府滅亡す	8.5 河上社大宮司高木家直・同社座主増憲新論を止め て和解する
			11.12 内大臣吉田定房高城寺々領を承認する

西 暦	時 代	国 内 県 内 事 項	町 内 事 項
1336	延元 3 建武 3	3. 2 阿蘇権直小城天山にて自決 5.25 楠正成戦死(湊川の戦)	9.16 尊氏高城寺々領を承認する
1337	〃 2 〃 4		5. 7 河上社座主増憲对宮部定範との免田支配争い ○高城寺戦火により焼ける(治乱記)
1352	正平 7 文和 元		8. - 懐良親王兵を率いて肥前国にはいり18日国府につく
1355	正平 10 文和 4		2. - 菊池氏のため高木家直の甘南備城攻め落される (治乱記)
1360	正平 15 延文 5	4. - 龍造寺氏太宰府で宮方の軍と戦う 6.29 龍造寺氏菊池氏の軍と神埼で戦う	
1367	正平 22 貞治 6		○河上社座主増成(実相院5世)对修密坊との免田争い (河上社文書)
1368	正平 23 応安 元	12. - 足利義満三代将軍となる	8. - 尼寺印鑓社創建
1382	弘和 2 永徳 2		9. 5 輪尼季高玉林寺に寺地を寄進する ○玉林寺創建、鎮西探題今川了俊、舍弟仲秋燈料として田地を寄進(鎮西志)

西 暦	時 代	国 内 県 内 事 項	町 内 事 項
1386	元中 3 至徳 3		1.18 今川了俊玉林寺々領を承認する( ) 6. 1 今川仲秋玉林寺に佐嘉郡内の土地5町を寄進する (治乱記)
1391	元中 8 明徳 2		1.11 輪尼季高玉林寺に巨勢庄内の地を寄進する
1392	元中 9 明徳 3	10. - 南北両朝合一する	2. - 河上社久しく中絶していた祭礼を復活
1400	応永 7		6. 5 探題淡川義俊河上社へ佐嘉郡内中河内6町寄進する (淡川氏系図)
1418	〃 25		○兵動氏々祖兵動正光佐保にとどまる
1430	永享 2		9.27 太宰少弐河上社へ仏性田として神野村内30町護摩 料として屋形内3町8反寄進する
1441	嘉吉 元		5.24 今川胤秋、川上にて中村胤頼を討つ(越前の戦)
1465	寛正 6	1. 8 応仁の乱起こる	12.23 千葉胤朝は岩部常業を国府城に攻め、翌24日寄手の 放火で国府城、府中五山炎上する(肥前土一揆)
1467	応仁 元		○神通寺の子院であった実相院が本寺を代位する
1470	文明 2		4. 5 千葉胤盛実相院に神野等の土地を承認する
1486	〃 18		

西暦	時代	国内	県内事項	町内事項
1497	明応6			○兵動正直多久榎峯城で戦死(兵動家系図)
1505	永正2			4.10 大内氏老臣陶興房ら河上社に禁制を掲げる
1534	天文3		7.15 龍造寺家兼ら陶興房を神埼に破る	○於保資宗横辺田(江北町小田)で戦死(於保氏系図)
1535	天文4			8.3 於保弼親、大内氏と龍造寺家兼との戦いで家兼方につき戦死
1542	〃11			○兵動正貞、筑後秋月の軍来襲の時、山内で戦い市ノ瀬で戦死
1543	〃12		8.25 ポルトガル船、種子島に漂着、鉄砲を伝える	○後奈良天皇玉林寺へ勅額下賜、勅願寺となる
1545	〃14		1.24 龍造寺周家、家泰、頼純一族神埼尾崎村抵園原にて馬場頼周家臣に謀殺さる	1.16 於保胤宗多久にて戦死
1546	〃15		3.10 龍造寺家兼(剛忠)没(93才)、胤信(隆信)主家を継ぐ	1.23 龍造寺家純、家門、純家一族、河上社にて馬場頼周一族に謀殺さる
1551	〃20			4.2 龍造寺家兼、馬場頼周父子を河上にて討ち、首級を高城寺、万寿寺に分けて葬る
1556	弘治2		○隆信母慶聞尼鍋島清房に再嫁する	○於保氏再興、於保天満宮再建
1557	〃3		10.1 隆信、神代勝利を攻め、勝利筑前に逃れる	10.16 金歌峠の戦、小川筑後守信安戦死
1560	永禄3		5.19 織田信長、今川義元を桶狭間に破る	9.13 隆信、神代勝利を川上に破る。勝利彼岸に逃れる
1561	〃4		9.1 謙信と信玄、川中島に戦う	

西暦	時代	国内	県内事項	町内事項
1561	永禄4			○冬、勝利山内に帰る
1565	〃8			3.15 神代勝利没(55才)
1569	〃12		5.1 毛利氏の軍筑前に入り、大友氏の立花城を囲む	4.1 隆信、神代長良を襲い長良筑前に逃れる
1570	元亀元		8.20 今山の陣後多久榎峯城に小田氏を破る	8.1 長良山内に帰る
	〃		10.1 龍造寺、大友和平、宗麟備国する	○大友宗麟高良山に陣し、佐藤へ来襲す。肥前の諸氏多くこれに従う
1573	天正元		7.1 室町幕府滅亡	4.1 大友軍、佐嘉北方に陣し、堂塔民家を焼く。高城寺焼失、龍造寺大友両氏和する
1582	〃10		6.2 本能寺の変(信長、光秀に殺さる)	3.1 宗麟再び龍造寺攻略のため高良山に陣す
				4.1 同軍佐嘉周辺でしばしば戦う
				8.17 大友八郎親貞今山に陣する
				8.20 鍋島直茂、今山の本陣を夜襲し、大友親貞を討ちとる
				○河上社、実相院、健福寺、光明寺外寺社等戦火により炎上
				○兵動正明牛津で戦死する

西 暦	時 代	国 内 事 項	町 内 事 項
1582	天 正 10	6.13 秀吉、光秀を山崎に破り、光秀は土民に殺される	
1584	〃 〃 12	3.24 龍造寺隆信、島津家久の軍と島原に戦い戦死 (56才)	3.24 兵動光明、光延、信光ら親子3人島原攻めで戦死
1588	〃 〃 16	4. 6 秀吉、長崎を直轄領とし直茂を代官とす	
1590	〃 〃 18	春、龍造寺政家隠居し、子高房嗣ぐ。直茂龍造寺領の国 務をみる	
1591	〃 〃 19	9.24 秀吉朝鮮出兵を命ずる	
1591	天 正 19	10. 秀吉、名護屋に築城の工を起こす	
1592	文 祿 元 元		〇秀吉、川上川名護屋渡し通過 (築隠閉書)
1596	慶 長 元 元		〇大洪水にて健福寺荒廢
1597	〃 〃 2	1. 1 秀吉、諸将に朝鮮再征渡嶺を命ずる	〇直茂玉林寺に寺地寄進、祈禱寺とする
1598	〃 〃 3	8.18 秀吉没す (63才)	〇今山焼起こる
1600	〃 〃 5	9.15 関ヶ原の戦、東軍 (徳川方) 大勝する	
		10. 家康は勝茂らの西軍加担の罪を免じ、鍋島氏に柳 川の立花宗茂を討たせる	
江戸時代			
1608	慶 長 13	6.16 佐嘉城の堀を掘り始める	11.29 松田茂久没
1609	〃 〃 14	〇佐嘉城天守の地形完成する	〇佐嘉築城用の大石小石を川上より運ぶ
1611	〃 〃 16	6. 佐嘉城の普請完成	
1615	元 和 元 元	6.13 幕府一国一城の制を布く	〇この頃成富茂安水利土木工事を始める

西 暦	時 代	国 内 事 項	町 内 事 項
1616	元 和 2	4.17 家康没す (75才) 肥前国絵図出来る	
1617	〃 〃 3	〇小城支藩成立	
1618	〃 〃 4	6. 3 鍋島直茂没す (81才) 家臣13人追腹する	
1621	〃 〃 7	10. 鍋島三平 (元茂) 柳生新陰流兵法免許を受ける	
1622	〃 〃 8		〇河上社対千栗社の一の宮争い
1625	寛 永 2		3.21 鍋島勝茂玉林寺へ寺地寄進
1628	〃 〃 5	〇知行五百石以下の家臣の在郷を許す	〇国分両寺、勝茂により再建する
1632	〃 〃 9	〇十人組制を作らせる。間もなく五人組制となる	9.18 成富茂安尼寺築山草庵で没する (75才)
1634	〃 〃 11	5.28 幕府、長崎に出島を築く	
1635	〃 〃 12	6.30 参勤交代制を定める	
1637	〃 〃 14	10.25 島原の乱起こる	
1654	承 応 3	11.11 小城藩主鍋島元茂没 (53才)	
1656	明 暦 2		8.22 鍋島舍人山内の各被官に帯刀を許す
1657	〃 〃 3	2.19 勝茂隠居、光茂相続	
1658	萬 治 元 元	3.24 勝茂没 (78才) 追腹36人	2. 深江信溪、通天寺 (井手) を開基する
1661	寛 文 元 元	7. 7 鍋島光茂、家康の追腹を禁止する	4. 8 光茂玉林寺、通天寺へ新山を寄付する
1663	〃 〃 3		〇深江信溪、権公父子の像を北原の永明寺に祭る
1669	〃 〃 9	8.15 肥前大風、小城山崩れ山津波起こる	〇湛然和尚松源の華藏庵に隠棲

西 暦	時 代	国 内 県 内 事 項	町 内 事 項
1669	寛 文 9		○石田一鼎下田に隠棲
1670	〃 10	9.15 酒造半減とタバコ禁止令出る	5. 8 石井樋修理
1680	延 宝 8	8. ー 幕府キリスト教厳禁を下す	11.10 湛然和尚華藏庵で没
1682	天 和 2	○幕府生類あわれみの令を出す	8. 2 深江信深没 (63才)
1684	貞 享 元		6. 9 安住勘助没
1693	元 禄 6	○小城領内縄打器製造禁止	12.21 石田一鼎下田で没 (65才)
1695	〃 8	11.29 鍋島光茂隠居、綱茂家督相続	○納富由助の指導により名尾紙始まる
1700	〃 13	5.16 光茂没 (69才)	
		7. ー 山本常朝黒土原庵室朝陽軒に隠棲	10.13 常朝樂石大小隈に庵を結び移り住む
1713	正 徳 3	9. ー 葉隠閉書完成する	
1716	享 保 元	9. 7 佐藤藩領大風民家5397神社2倒壊、死者1	10.10 山本常朝大小隈にて没 (61才)
1719	〃 4	○享保の大飢饉、佐藤藩損毛石数 729,248石 餓死者 30,000人 (17~18年)	○享保の大飢饉、害虫大発生
1732	〃 17	3.~5. ー 疫病流行し死者多数	○翌18年8月まで平野に粥場を設置する
1733	〃 18	5.29 佐賀大財仏心寺で餓死者大施設鬼施行	○旧川上村内餓死者 2,640余人施設鬼施行
		○幕府、米の買占めを禁ず	12.20 玉林寺火災により大半焼失する
1737	元 文 2	12. ー 藩庁に徒罪方設置す。刑法改正	
1783	天 明 3	4. ー 肥前疫病流行、死者多し	10.21 横尾紫洋斬罪 (51才)
1784	〃 4	8. 1 大風雨被害甚大	

西 暦	時 代	国 内 県 内 事 項	町 内 事 項
1787	〃 7	1.23 石井樋により新庄嘉瀬大橋までの川土居に植林	3. ー 尼寺印繪社再建
1789	寛 政 元		5.27 水上山万寿寺修復成就
1791	〃 3		
1792	〃 4	3. 1 雲仙爆発し熔岩噴出、地震津波発生	
1814	文 化 11	12.7 鍋島直正江戸桜田屋敷で誕生	
1816	〃 13		○河上社火災後鍋島氏により再建
1818	文 政 元	8. ー 佐藤藩内大干ばつ	
		○頼山陽佐賀を訪れる	
1828	〃 11	8. 9 肥前領内暴風雨 (子年の大風)	7.30 永山貞武没 (44才)
1845	弘 化 2		○実相院失火により炎上する
1854	嘉 永 7		10.23 大久保に佐藤藩大砲の台場を設く
	(安政元)		
1867	慶 応 3	10.14 慶喜大政奉還を請い翌日朝廷許可する	
		12.9 王政復古の号令出る	
	明治時代		
1868	明 治 元	3.15 五ヶ条の御誓文	
		7.17 江戸を東京と改称	
		9. 8 明治と改元 (一世一元の制)	
		○神仏分離令を出し神社を寺院より独立させる	
		○各地で仏教排教運動起きる (薩仏毀釈)	

西 暦	時 代	国 内 事 項	町 内 事 項
1869	明 治 2	6.17 版籍奉還	
1871	4	1.18 鍋島直正没 (58才) 1.21 古川松根殉死 (59才)	4. - 春日山に御墓所をつくる
1872	5	9. 4 佐賀県を伊万里県と改め、藤原県を併合 11. - 東京、長崎間に郵便設置 12. - 佐賀郵便取扱所 (局) 開局 3. - 県立好生館病院開設	○水上山万寿寺火災後再建
1873	6	5.29 伊万里県を佐賀県と改称、県庁を佐賀に移す 8. 3 小学校を下等 (4ヶ年) 上等 (4ヶ年) に編成する 8. - 学制々定により旧来の私塾、寺小屋が小学校となる	
1874	7	9.13 新橋、横浜間の鉄道開通 11.9 太陽暦採用を布告する 1.10 徴兵令布告	
1875	8	○佐賀県は人口 600~700に一小学校設置 2. 1 佐賀の乱起こる 3. 1 平定 2.16 佐賀軍県庁に入る。佐賀城焼失 4.13 江藤新平処刑 (41才) 島義勇処刑 (53才) 2. 22 愛国社結成 3.28 廃刀令制定	12.16 三反田郵便取扱所開設 ○旧川上・春日村大字ごとに小学校設立 3. - 三反田・都渡城小学校創立

西 暦	時 代	国 内 事 項	町 内 事 項
1876	明 治 9	4.18 佐賀県を三潞県に併合 8.21 三潞県を廃し、肥前国は長崎県となる	○秋、都渡城より三反田に至る道路普工
1877	10	9. 8 佐賀に長崎県支庁を設置 2.15 西南の役起こる 5. 3 佐野常民、博愛社 (日本赤十字社前身) を設立 9.24 西郷隆盛自刃 (51才)	○秋同上道路完成
1878	11	1. - 第1回長崎県会議員選挙 7.22 郡区町村編成法制定	○都渡城・久池井の両小学校合併の議申請 (郡長副申し長崎県令へ) ○戸長役場を大字ごとにおく ○下田、名尾に分校設置 ○村会開催
1879	12	○この年県内米価 1石 (150kg) 5円12銭ぐらい ○新教育令公布のため学区制廃止	
1880	13	4. - この月県下の町村会活発に開催される 12. - 県内の物価騰貴 (8月米1石12円20銭)	
1881	14	○小学校を初等3年、中等3年、高等2年に編成	3. - 梨山・久池井の二校合併し、現在地に仁徳小学校設立
1883	16	5. 9 佐賀県を長崎県から分離、鎌田景弼県令として就任	
1884	17	7. 1 佐賀県庁開庁	4.16 川上・東山田の二校合併し、河崎小学校、池ノ上・久留間の二校合併して池久小学校を設立 ○三反田駐在所設置
1885	18	9. 5 佐賀県会開催	
1886	19	○県庁役人洋服着用 ○尋常科を5ヶ年、高等科を3ヶ年に編成	
		7.13 日本標準時の決定	

西 暦	時 代	国 内 ・ 県 内 事 項	町 内 事 項
1887	明 治 20	12.28 佐賀県庁舎落成式、開庁式	5. 8 川上駐在所設置
1888	〃 21	4.25 市町村制公布	12.1 春日郵便局開局
1889	〃 22	2.11 大日本帝国憲法発布	3. - 尼寺駐在所設置
		4. 1 佐賀市に市制をしく	5. - 今古賀(現中極) 駐在所設置
			〇市町村制実施により春日・川上・川上・松梅各村誕生
			9. - 尋常仁慈小学校と改称
			〇松梅尋常小学校と改称。再び分離して三反田・名尾・下田の三校を設立
1890	〃 23	10.31 教育勅語を発布	4. - 仁慈尋常小学校と改称
		11.25 第1回帝國議會開会	4. - 6ヶ村組合立高等小学校を駄市川原追分に設立
1891	〃 24	8.20 鳥樞・佐賀間鉄道開通	4. - 河崎・池久兩校合併し、川上尋常小学校を現在地に設立
1892	〃 25	2.15 第2回衆議員選挙大干渉、県内で即死8、重傷26、軽傷35を出す	
		佐賀県へ憲兵派遣	
1893	〃 26	5. - 県下大旱ばつ	
		10. - 害虫大発生	10.10 佐賀区裁判所春日出張所設立
		10.14 暴風雨	10.4 国分寺両寺とも台風で倒壊する
1894	〃 27	8. 1 清国に宣戦布告(日清戦争)	
1895	〃 28	5. 5 佐賀武雄間鉄道開通	5. 5 久池井駐在所設置
1896.	〃 29	11.20 県会議事堂落成式	

西 暦	時 代	国 内 ・ 県 内 事 項	町 内 事 項
1897	明 治 30	7.10 武雄早岐間鉄道開通	2. 7 今泉蟹守大願寺で没(81才)
1898	〃 31	〇有田伊万里間鉄道開通	
1899	〃 32	6. - 大木橋任没(69才)	
1901	〃 34	3. 2 奥村五百子ら愛国婦人会創立	4. 1 高等小学校より分離、川上尋常高等小学校と改称。春日尋常小学校と改称す
1903	〃 36	〇西唐津久保田間鉄道開通	
1904	〃 37	2.10 ロシヤに宣戦布告(日露戦争)	
		4. 1 タバコ専売法公布	
		〇佐賀馬鉄道開通開始(明治橋、佐賀駅開)	
1907	〃 40	〇小学校義務教育6ヶ年となる	2. 1 川上郵便局開局
1908	〃 41		〇義務教育延長のため名尾・三反田・下田各小学校は5学年収容
1909	〃 42	4.14 種痘法公布	〇全上校6学年収容、高等科は追分の組合立へ
			11.15 川上軌道設立
1912	大 正 元	7.30 明治天皇崩御(61才) 大正と改元	〇高等小学校組合(駄市川原追分) 解散
1913	〃 2		〇名尾・三反田・下田の三尋常小学校を合併し、高等科を併置して、現在地に松梅尋常高等小学校を設立。名尾・下田を分教場とし4学年まで収容

西 暦	時 代	国 内 ・ 県 内 事 項	町 内 事 項
1913	大 正 2		8.20 健福寺銅鐘国宝指定
1914	3	1.12 桜島大噴火、大隅半島と地続きになる 8.23 ドイツに宣戦布告 (第1次世界大戦)	4.17 円鑑禅师座像国宝指定
1917	6		11.1 尼寺に進徳学院創立
1918	7	○米騒動県下にも及び 3. 1 米価1石26円を突破	
1920	9	10. 一 スペイン風大流行、県下死者1,693人	4. 1 川上県道認定 (佐賀市松原町より浜崎まで) 5. 一 高城寺開山堂落成
1921	10	4.11 メートル法採用	4. 一 名尾・下田の分教場2学年まで収容となる ○県立農事試験場春日分場設置 (尼寺)
1922	11	1.10 大隈重信没 (85才)	
1925	14	○北九州鉄道東唐津まで開通 5. 1 佐賀55連隊廃止	10. 一 第5発電所設立 3. 一 川上電車設立 8. 7 川上峡県立公園に指定
1926	昭 和 (大正15)		
1928	元 3	12.25 大正天皇崩御 (48才) 昭和と改元	
1929	4		

西 暦	時 代	国 内 ・ 県 内 事 項	町 内 事 項
1931	昭 和 6	9.18 満洲事変起こる	7. 1 中極郵便局開局 9.11 県道川上鍋島線認可 11. 一 佐賀県簡検定所設置 (尼寺)
1932	7	1.28 上海事変起こる 5.15 5.15事件起こる	1.13 県道川上牛津線及び岩松佐賀線認可 3. 一 三反田橋完成 11.1 佐賀農芸高校尼寺に移転
1933	8	3.27 国際連盟脱退 10.10 佐嘉神社遷座祭	
1934	9	12.1 肥前山口・鹿島・藤早間の鉄道開通	11.15 佐賀農芸高校落成
1935	10	4. 1 青年学校令公布 5.25 佐賀線全線開通	
1936	11	2.26 2.26事件起こる 6. 一 佐賀市貫通道路完成	
1937	12	7. 7 藤薄橋事件起こる (日華事変)	1.13 県立春日山道場落成開場 12. 一 春日・川上・松梅各村農地委員会設置
1938	13	○この年各学校男は長髪、女は洋式断髪を禁止	8. 一 この頃大旱ばつ、実相院雨乞いの龍川上川に下る
1939	14	4.12 米穀配給統制法公布 5. 一 ノモンハン事件 7. 8 国民徴用令公布	
1940	15	8. 一 この月より電力・石炭不足深刻となる 11.23 砂糖・ソッチ等生活物資の配給始まる	7. 一 食料配給キップ制実施

西 暦	時 代	国 内 ・ 県 内 事 項	町 内 事 項
1941	昭 和 16	3. 1 国民学校令公布 12. 8 対米英宣戦布告 (第2次世界大戦) 12. 28 NHK 熊本中央放送局佐賀出張所、産業奨励館から放送開始	4. 1 各小学校、国民学校と改称
1942	〃 17	11. 15 関門トンネル開通式	11. 18 松梅に森林組合誕生 ○郷士の銅鐘、浮立の鐘、貴金属、金属類、綿等供出
1943	〃 18	2. 1 魚の切符制実施 5. 24 旧中学生以上の勤労働員定まる	3. - 産業組合及び農会を解散し農会設立
1944	〃 19	12. 1 第1回学徒兵入隊 (学徒出陣) 2. 1 女子挺身隊出動	
1945	〃 20	9. - 県下中学校3年以上勤労働員、各工場へ配置 8. 5 佐賀空襲 8. 6 広島に原爆投下 8. 9 長崎に 〃 8. 11 鳥栖空襲 8. 15 天皇終戦詔書放送 9. 2 日本代表降伏文書に調印 10. 10 佐賀にアメリカ軍政府設置 12. - 県内の物産終戦直後の2倍となる ○この年明治33年以来の大凶作	9. 17 枕崎台風により大被害出る。平田死者20人、川上4人、尼寺8人 10. 10 阿久根台風による被害 ○この年大凶作
1946	〃 21	2. - 第1次農地改革法公布 4. 15 新円通貨切換	7. 29 台風と豪雨により被害出る

西 暦	時 代	国 内 ・ 県 内 事 項	町 内 事 項
1946	昭 和 21	5. 3 日本国憲法公布 10. 21 第2次農地改革法公布	
1947	〃 22	3. 31 教育基本法・学校教育法公布 小学校6年、中学校3年を義務教育とする	4. 1 6・3・3・4の新学制実施により国民学校を小学校と改称し、川上・春日・松梅各村に新制中学校発足
1948	〃 23	4. 5 第1回統一地方選挙 (知事及び市町村長) 5. 3 日本国憲法施行 5. 1 NHK 佐賀放送局発足	11. - 三村とも農業会を解散し、農業協同組合を設立 7. 5 豪雨により大被害出る 8. 23 川上果実協同組合設立
1949	〃 24	7. 15 教育委員会法公布 2. 18 佐賀県庁舎火災 8. 16 ジュゼッパス台風 (24水)	5. 27 天皇大和町を御通過 8. 16 ジュゼッパス台風により三村とも大被害 川上村死者19人、春日村死者3人
1950	〃 25	11. 12 佐賀大学開学記念式 12. - 北山ダム建設着工 12. 15 新県庁舎落成	4. - 於保に県営川上苗圃発足 8. 29 健福寺銅鐘及び高城寺円鑑律師の座像、国の重要文化財に指定される ○農地委員会を農業委員会と改称
1951	〃 26	9. 1 民間放送開始 9. 8 講和条約、安保条約調印 (サンフランシスコ条約)	3. - 名護區庁完成 4. - 於保に果林業試験場を設立
1952	〃 27	9. 15 老人の日設定 4. 28 サンフランシスコ条約発効 7. 1 全国住民登録実施	11. 1 旧三村教育委員会発足 (公選制) 3. - 官人橋完成
1953	〃 28	2. 1 NHKテレビ本放送開始	

西 暦	時 代	国 内 県 内 事 項	町 内 事 項
1953	昭 和 28	6.25 15号台風襲来(28水)	4. 春日保育園誕生 10.1 県立春日園発足
1954	〃 29	7. 1 防衛庁、自衛隊発足 11.30 県地方事務所廃止	1. 川上保育園誕生
1955	〃 30	5. 7 米の供出制を廃し、予約買付制となる 〇この年下期より、神武景氣始まり(32年上期頃まで) 家庭電化時代となる	4.16 春日・川上・松梅の三村合併して大和村誕生す
1956	〃 31	10.1 教育委員公選制から任命制となる	3. 渡瀬(平田)橋完成
1957	〃 32	12.12 日本、国連加盟成る	6.22 川上川漁業協同組合発足
1958	〃 33	1.29 南極観測隊、昭和基地設置 3. 9 関門国道トンネル開通	9.13 ケリコ乳業佐賀工場設立
1959	〃 34	3. 北山ダム完成 8. 1 NBCラジオ佐賀開局	4. 1 春日、川上地区有線放送電話開始 6. 1 八反原地区を大和町に編入
1960	〃 35	2.16 新硬貨 100円、50円、10円出る 4.10 皇太子御成婚 6.23 日米新安保条約発効 9.10 カラーテレビ放送開始	12. 川上頭首工起工 1. 1 大和町制施行 4. 1 八反原地区を大和町に編入 6. 1 春日、川上地区有線放送電話開始 9. 6 町の一部都市計画区域設定
			9. 川上頭首工完成 9. 6 町の一部都市計画区域設定 9. 幹線用水路起工

西 暦	時 代	国 内 県 内 事 項	町 内 事 項
1961	昭 和 36	4. 1 国民年金発足	4.19 天皇・皇后両陛下大和町御通過
1962	〃 37	4.19 天皇・皇后両陛下下県下御巡幸 5. 国道34・35号線全線開通	
1963	〃 38	9.12 原研国産第1号原子炉に火ともる 1.25 県立図書館落成 3.11 県体育館落成式	
1964	〃 39	11.1 新千円札発行 10.1 東海道新幹線営業開始	3. 池森橋完成 〇柑橋パイロット事業発足
1965	〃 40	10.10 第18回オリンピック東京大会開会 10.1 国鉄佐賀、鍋島間複線完成	3. 昭和橋完成
1966	〃 41	〇この年佐賀県米作り日本一となる 6.25 敬老の日、体育の日祝日に決まる	4.21 大和町章及び町歌制定
1967	〃 42	12.9 建国記念の日2月11日に決まる 〇佐賀県2年連続米作り日本一となる 〇この頃よりミニスカート流行	5.10 松梅児童館設立
1968	〃 43	4. 1 ラジオ受信料廃止 7. 1 交通反則金制度始まる 7. 1 郵便番号制度始まる 12.10 3億円強盗事件起きる 〇全国で大学紛争起きる	9. 大和町中央公民館建築完成 4. ロザリオの園設立 8. 1 県立青年の家春日山道場跡に設立 3. 渡月橋完成

西 暦	時 代	国 内 事 項	町 内 事 項
1969	昭 和 44	3.15 NHK・STSテレビ本放送開始 7.21 アポロ11号人類初の月着陸(アメリカ) 11.10 皇太子殿下初めて御来県 3.15 大阪で万国博覧会開催 ○水田の作付制限始まる	11. 皇太子殿下大和町を御通過 4. 1 国道 323号線認定 4. - ロザリオ幼稚園開園 4.13 川上峡温泉浴場完成 9. - 国道 263号線(北山パー・ドライン)竣工 1. 1 県立佐賀コロニー開所 3. - 名護屋橋歩道側橋完成 3. - 官人橋歩道側橋完成 3. - 惣座橋完成 4.16 県立大和養護学校開校
1970	〃 45		
1971	〃 46	2.14 佐賀駅高架移転工事始まる 7. - 三日町土生遺跡発掘	
1972	〃 47	2.19 連合赤軍浅間山荘にたてこもる 5.15 沖繩本土復帰なる 8. 2 佐賀国体51年開催確定 1. 1 老人医療費無料化実施 3. - 幹線用水路全線竣工 11.15 関門架橋開通 ○諸物価高騰、終戦直後以来最大のインフレ	3. - 官人橋歩道側橋完成 3. - 惣座橋完成 4.16 県立大和養護学校開校
1973	〃 48		
1974	〃 49		2.25 実相院の法具箱及び説経箱、県重要文化財に指定 さる 10.11 国分寺跡発掘調査開始(第1次)

### 編 集 後 記

大和町教育委員会で町史編さんの事業が具体化し、私たちが執筆の依頼を受け、最初の話し合いをもったのが昭和四十五年八月でした。本務を持ち、多忙な勤めの傍ら文献をあさり、現地を探訪し、時には民家を訪れ、史実の発掘収集に努め、これらの諸資料を整理しながら記述せねばなりませんので、容易なことではなく、時間的にも計画のよういきませんでした。まして、専門家でもなければ著述の経験もない素人ばかりで、この仕事を担当することそのものが無謀であったかも知れません。

しかし、織って考えますと、大和町には町史としてまとまったものがなく、町内はもとより町外の郷土出身者からも、その発刊が強く要望されていたことでもあり、不安はありましたが一応分担した区分により執筆することにいたしました。

資料を持ち寄った会合をしばしば開き、全体責任制という立場を貫きながら、執筆者同志のスムーズな連携と精力的な活動とによって、ともかく町史を編集することができました。執筆に当たっては、あくまで独断をさけ、資料に基づいて書いたつもりですが、調査もれや研究不足のために納得されないところもあると思います。しかし、だれにも気楽に読んでいただける町史をモットーに、文章もできるだけ平易に、又図版・写真等も多く利用し、かなづけにも留意しました。専門家からみれば不完全なものかもしれませんが、まず礎石的な役割りを果たしたという心境です。これを基にしていっそう充実した町史にしていただくことを期待します。資料収集に当たっては、佐賀県史を始め各種の著書を参考にさ

せてもらったことはもち論、県立図書館や博物館を始め各種の機関を利用させていただき、諸先輩の指導助言と便宜を与えていただいたことを衷心よりお礼申し上げます。

更に本事業遂行のため有形無形の御援助をいただいた町当局、町議会、教育委員会、公民館、関係学校の方々並びに町内外諸賢の御支援御協力に対し深甚なる感謝の意を表する次第であります。

最後に本書が多くの方々に御活用いただければ幸甚に存じます。

昭和五十年十月

大和町史編さん委員会委員

東山田 木下哲郎 (大和町の概要・飛鳥時代・奈良時代・平安時代・近代・現代の災害と

建設・交通と通信・文化財)

北原 御厨勝彦 (鎌倉時代・南北朝時代・室町時代・現代の社会福祉)

楮原 東 公之 (現代の産業と経済)

八反原 松本熊雄 (近世・現代の教育と文化)

大久保 大久保 豊 (民俗・現代の観光)

今山 入井龍道 (神社・寺院)

立石 中村正美 (民俗・現代の住宅、都市計画事業、簡易水道)

小隈 山本弘道 (原始時代・大和時代)

井手口 菅原誠哉 (現代の政治)

尼寺 永石昭生 (鎌倉時代・南北朝時代・室町時代・現代の治安)

大和町史編さん委員会事務局

幹事 教育長 松本虎夫 (前任)

〃 〃 鈴木実衛 (前任)

〃 〃 森 進

〃 次長 高島 隆

〃 公民館長 真崎 団造 (前任)

〃 〃 於保 禅球

書記 主事 松崎 謙讓

事務局 佐賀県佐賀郡大和町大字久池井二九七〇番地 大和町中央公民館

〒八四〇一〇二 電話 春日局(〇九五二六)

二一〇〇〇九

二一〇四六三

# 大和町史

昭和五十年十一月三日発行

編者 大和町史編さん委員会

発行者 大和町教育委員会

発行所 大和町教育委員会

印刷所 福博印刷株式会社

## 大和町史正誤表

頁	誤	正
78	行 4、5	欽明天皇 かみちりてんのみかど
145	(ふりがな) 12	鴨打陸奥守 かみうちむつのおも
166	12	東高木家
196	3	仲秋の子 なかあきのこ
197	(ふりがな) 16	相摸守 さきまのまもり
199	系 図	大輔 だいふ
203	(ふりがな) 9	藤原季郷 ふじはらのせいきょう
217	写真 (成松家鑑 櫃の家紋)	金敷峠 かぬしまたうげ
227	(ふりがな) 16	蓮池城 はすのいけ
405	表の (出身地欄)	大山利八 おほやまとりやち
405	表の (右同欄)	古川利弘 ふるがわのりひろ
502	11	翌十七日午前 六時半ごろ
503	12	八月十七日早朝 午前六時半ごろ
503	12	ジンギリジン
674	(二ヶ所) 12	ゆもじか
674	13	ゆもじか
845	年表 14	538   7.3   一 部 改 定
845	年表 16	554   新 装 改 定

大和町史「大和町史」昭和五十年十一月三日発行 発行所 大和町教育委員会

(大和町役場提供)

